

冬休みの思い出を話そう - 文章の内容理解、語彙拡充 -

【対象児童】 小学校中学年(難聴学級)

【自立活動の項目】コ(1)(2)(3)、環境(5)

【ねらい】

- ・教師が書いた文章の内容を理解し、文章から想起した自分の思い出を話す。
- ・文章の内容に関連した言葉を知る。

【題材のポイント】

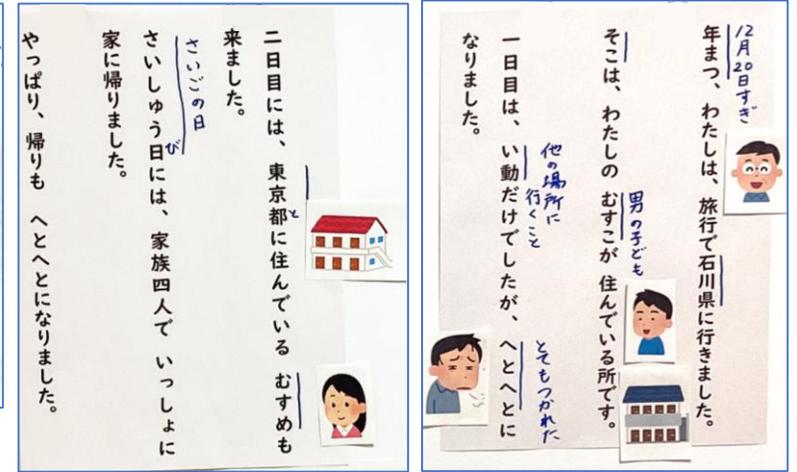
- ・指示語や、各教科等の学習内容(本時:都道府県)を取り入れた文章を作成し、提示する。
- ・児童の理解に応じて言葉の言い換え、イラストの提示をする。
- ・適宜、5Wの質問をして理解の確認をする。

【児童の様子】

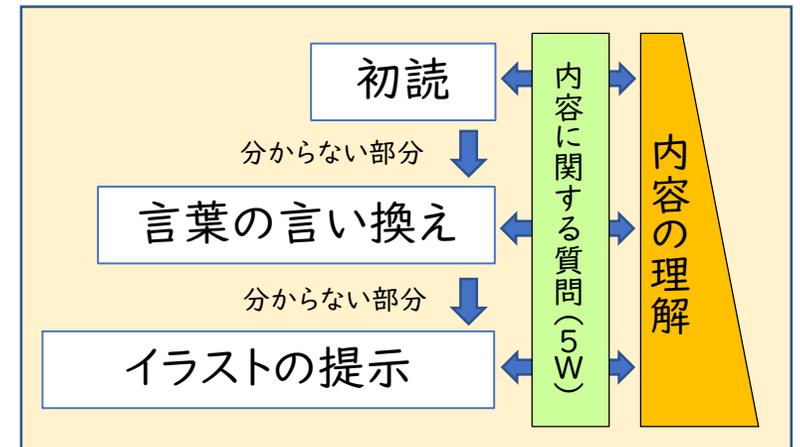
- ・初読時、音読自体はスムーズだった。 声に出して読む ≠ 理解
しかし、内容の理解は難しかった。
- ・言葉の言い換えやイラストの提示により内容の理解が深まり、指示語が示す言葉を自信をもって答えたり、関連する言葉の意味を考えて話したりした。
(例:おすこは、男の子ども。おすめは? ⇒本見「女の子ども」)
- ・宮城県への家族旅行の思い出について話した。宮城県へ車で移動した経験を基に「(石川県は車で)10時間ぐらいかな」と自分なりに考えて話す様子が見られた。さらに、初詣の思い出も話したが、「お賽銭を入れる」を「お金を投げる」と話したため、やり取りの中で適当な言葉への言い換えも求めた。
- ・本時で扱った言葉を、次時の学習で自発的に使う様子が見られた。



説明で使用した
地図、イラスト



提示文(一部)



本時の手立てのイメージ